第 3 回　あつぎ気候市民会議　会議録

■ 日時・場所

日時：2023 年 8 月 20 日（日）13:00～17:00
場所：サイエンスホール 250（厚木シティプラザ 6 階）

■ 出席者

参加者：40 名（欠席 12 名）（従来の A～I の 9 グループのうち、欠席者の多かった E グループを今回欠番とし、8 グループとした。元 E グループの出席者は他のグループへ割り振った。）
専門家：松原弘直氏（環境エネルギー政策研究所（ISEP））、梶田佳孝氏（東海大学）、
　　山本佳嗣氏（東京工芸大学）、村上千里氏（消費生活アドバイザー）　（登壇順）
司　会（全体ファシリテーター）：岩崎茜氏

■ プログラム

13:00	開会 前回のふりかえり・今回の内容説明	・前回のアンケート結果の共有 ・今回の内容とゴールの確認
	アイスブレイク	
13:20	専門家レクチャー A-1 再生可能エネルギーを創る、地産地消 A-2 移動・まちづくり	 講師：松原弘直氏 講師：梶田佳孝氏
14:15	グループ討議 1	
14:55	（休憩）	
15:05	専門家レクチャー B-1 住まい・省エネ B-2 消費・食・農・廃棄	 講師：山本佳嗣氏 講師：村上千里氏
16:00	グループ討議 2	
16:40	（休憩）	
16:50	次回に向けての連絡・分科会の選択について説明・アンケート	
17:00	閉会	

■ 配布資料

【事前配布（配信）】
・あつぎ気候市民会議　第 3 回会議案内
・第 2 回会議質問への回答
・専門家レクチャー資料（A-1～B-2）
【補助資料】
・『太陽光発電のギモン解決！よくある質問 15 選』（当日配布・レクチャー1 関連）
・厚木市カーボンニュートラルロードマップ市民会議の概要（前回配布）

1．開会　前回のふりかえりと今回の説明・アイスブレイク

はじめに、遠藤睦子事務局長から、前回のアンケート結果の紹介や前回のグループ発表「脱炭素した 2050 年あつぎのイメージ」のまとめの共有等を行った。

続いてアイスブレイクでは、各グループが前回のグループワーク 2 で作成した模造紙を前に、これまでに出てきた意見やアイデアなど、議論の内容を振り返った。

2．専門家レクチャー　A-1 再生可能エネルギーを創る、地産地消「持続可能な創エネ　自然エネルギーへの転換を考える」（松原弘直氏）

特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所の松原弘直氏によるレクチャーでは、「自然エネルギーへの転換を 5W1H で考える」として、気候危機とエネルギー危機について各観点に関連した資料を示しながら解説が行われた。

厚木市の再生可能エネルギー転換のポテンシャルを提示したほか、再生可能エネルギーの導入のメリットや種類、導入に至るまでの道のりやコストについて事例を挙げて提案がなされた。また、安定的な電力供給のため他地域と連携することが必要という視点も示された。

3．専門家レクチャー　A-2 移動・まちづくり（梶田佳孝氏）

東海大学建築都市学部土木工学科の梶田佳孝氏によるレクチャーでは、移動による CO_2 排出量を削減するための対策について、人の移動と物流の 2 つの観点から解説が行われた。

交通手段・移動距離・移動回数の工夫や、EV（電気自動車）など次世代自動車の普及について解説したほか、低炭素を実現する公共交通システム(モビリティ)やコンパクトシティの取組、自動運転やドローン配送など物流の効率化による CO_2 削減効果への期待を挙げた。また、将来における少子高齢化・人口減少とコンパクトシティとの兼ね合いに関する視点も示された。

4．グループ討議 1

テーマ A-1 及び A-2 のレクチャーを受けて、グループ討議 1 では、興味を持ったこと・重要だと思ったこと・アクションプランに取り入れたいことを各自がピンクの付箋に書き出し、付箋を出し合って似たコメントをまとめていった。話し合いの中で新たに出てきたアイデアは黄色の付箋に書いて追加した。その中で、課題になりそうなことがあれば、青い付箋に書いて追加した。

移動に関しては、多くのグループで「レンタサイクル（シェアサイクル）の活用促進」等、自転車の積極的利用が挙がっている。人の移動の関係では、この他に、市内の自動車利用を制限するための仕組みづくりや、自動車の乗り合いシステム、EV バス・グリーンスローモビリティ・モノレール等の導入について議論された。また、物流に関しては、ドローン配送や駅での荷物の受け取り等が挙がった。厚木市を物流の中でどのように位置づけるか、またバス路線と関連させたコンパクトシティ化や歩きやすいまちづくりなど、まちづくりと移動・交通の観点を重ね合わせた議論を多くのグループが行っている。ICT を用いたインフラ整備を重視するグループもあった。

また、エネルギーに関しては、太陽光発電の設置をさらに促進する手法について議論したグループが多かった。それ以外の自然エネルギー（風力、バイオマス等や新技術）のほか、自転車やトレーニングマシンを利用した発電に着目したグループも複数あった。厚木市が主体となって創エネに取り組むべきという意見も出ている。

各グループの討議の概要は一覧表にとりまとめ、別紙として公開する。

5．専門家レクチャー　B-1 住まい・省エネ（山本佳嗣氏）

東京工芸大学 工学部工学科の山本佳嗣氏によるレクチャーでは、住宅や建築物の省エネ基準への適合状況や、住宅における負荷削減・省エネ・創エネのための各取組について解説が行われた。

初めに住宅でのエネルギー消費特性や厚木市の CO_2 排出量の傾向や特性を紹介し、次いで建築物省エネ法や ZEH の紹介、住宅等における省エネ(断熱気密化)の課題と提案が示された。さらに、市内団地の改修事例、空調・換気・給水・給湯における取組例が挙げられた。

また、エネルギー消費と健康性、災害性などのマルチベネフィットを考えることで取り組みやすくなるという指摘のほか、住宅での創エネに関する提言があった。

6．専門家レクチャー　B-2 消費・食・農・廃棄（村上千里氏）

公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会の村上千里氏によるレクチャーでは、食と農、衣服、プラスチックを取り上げ、カーボンフットプリントを念頭に、商品選択・消費の場面で温室効果ガスを削減するための考え方について解説が行われた。

食や消費財をカーボンフットプリントの視点で捉え、商品の一生において環境や人権に対する配慮が明らかになっているものを選ぶ「エシカル消費」について延べ、消費者の選択が社会の在り方や産業の在り方に影響を与えていることを示した。併せて、温暖化対策をポジティブに捉えるためには、商品の一生の裏側でどのような影響が生じているのかを考えることや、情報の共有が重要という課題提起がなされた。

7．グループ討議 2

テーマ B-1 及び B-2 のレクチャーを受けて、グループ討議 1 と同様の手順で話し合いを行った。

住まいに関しては、多くのグループが住宅の断熱効果に着目した。健康の観点からの室温対策や、モデルハウスでの体験など、様々な観点から意見が出されている。また、DIY に関する意見も多かった。厚木市内の団地の改修と関連した議論を行ったグループもあった。

消費・食・農・廃棄に関しては、幅広い意見が出された。特にエシカル消費について議論したグループが多く、認知度や価格等の課題に対して、公認マークや税制面での差別化といった対策が検討されている。また、量り売りを促進するためのアイデアなど、脱プラスチックやゴミ減量につながる意見が多く挙がった。この他、地産地消促進のための改善案や、衣服のリユース・リサイクルに関する提案などが出されている。

また、これらの取組が現状ではうまくいっていないことについて、周知を進めることで消費者の意識が変わることが期待できる・若い世代では意識が既に変わっている可能性があるといった意見や、過度な便利さに慣れている現状を見直す・エシカル消費を「かっこいいこと」と捉えるといった、価値観の転換の重要性を指摘する意見が出された。

各グループの討議の概要は、グループ討議 1 と併せて別紙として公開する。

8．ゲストによる講評

ゲストの北海道大学 高等教育推進機構の三上直之准教授（2020 年に日本で初めて気候市民会議を札幌市で実践）より以下の講評があった。

・関東地方中心に気候市民会議が広がり、結果が行政の計画改定・策定等に活用されている。ヨーロッパの国や自治体では提言が新法律や気候変動対策のための予算にもつながっている。

・温室効果ガスを削減する具体的な方法について、初めは難しく考えすぎず、皆で色々な意見を出し合うとよい。どのような制度や政策があったらよいか、どんな取り組みがあれば前に進むか知恵を出し合う中でいい提言が出来上がってくる。次回色々なアイデアを出してみると、議論したからこそ出てくる厚木市らしい提言がまとまっていくことと思う。

9．分科会の説明・次回に向けての連絡

次回の第 4 回市民会議からはテーマ A とテーマ B に分かれて議論を進めていくため、各自がどちらへの参加を希望するのかをアンケートで回答するよう窪田とも子実行委員から依頼した。

10．閉会

以上